

《民間教育最高功労賞》

青木清先生

エース教育総合研究所 理事長
一般社団法人伝心会 理事長
NPO法人 徳育と人間力育成研究所 理事長
青木経営フォーラム 主宰



略歴／1936年1月1日生まれ。54年、学習・珠算・書道塾開塾。63年、神奈川県認可川崎経営専門学校校長。71年、富士学院（学習塾）設立、首都圏に30教場を展開。83年、学校法人富士学院理事長。95年、エース教育総合研究所設立。著書に『海外帰国生を受験作戦』（声の教育社）ほか。

受賞理由
首都圏の民間教育の発展に寄与した功績、及び民間教育事業者の経営支援に寄与した功績。

◆受賞のご感想

このような賞をいただきましたことを、心より感謝申し上げます。「褒める・認める・励ます」という教育理念のもと、首都圏、日本全国、そして海外にも教室を出しました。幼児教育から小・中・高・大学受験、さらに専門学校、カルチャースクール、企業経営者の教育まで、文字通り3歳〜100歳までを対象にできました。頑張りすぎて、57歳のときに病気で倒れ、3年間千葉の房総半島で静養いたしました。そして平成6年あたりから徐々に



に体調が良くなり、お世話になった塾業界で恩返しができないかと考えるようになりました。今も青木フォーラムなどを開催させていただいています。この調子でいけば、100歳まで現役でやっていけるのではな

◆塾業界へのアドバイスとメッセージ

かつて学習塾は悪者にされ、「必要悪」などと言われたこともありましたが。また、海外帰国子女が日本の学校で嫌われ、いじめられるということも多々ありました。長年様々な塾を運営してきて、そういったことがとても辛かった思い出として残っています。今は少子化や景気低迷など、厳しい環境下であるとはいえ、「必要悪」などと言われるようなことはありません。ですから、自分がやりたい塾を思いきりやっていたください。自分の信念や理念を貫



いた教育に自信をもって貫いていただきたいと思えます。子どもたちの能力を伸ばし、そして活かし、公教育にはできないこと、民間教育ならではの教育をしていくことを望みます。

石井正純先生

学習塾・帝塚山泉の会 代表
社団法人全国学習塾協会 元会長



略歴／1932年5月7日生まれ。55年、学習塾・帝塚山泉の会設立。63年、関西私塾教育連盟（関私連）の創設に尽力。71年、国立大阪病院小児科院内学級開始。80年、関私連理事長。84年、関私連会長。89年、社団法人全国学習塾協会常任理事。98年、全国学習塾協会会長。2002年、ギリシアで開催された国際教育会議参加。

受賞理由
院内学級での活動や大阪府を中心とする地域での活動を通じて民間教育の発展に寄与した功績、及び長きにわたる民間教育団体の発展に寄与した功績。

◆受賞のご感想

本日は本当にありがとうございます。私は今年で83歳になります。平成13年1月から塾の募集は全部やめました。ひよんなことから院内学級に関わるようになり、やっと勉強を始めたお子さんが1週間後に亡くなってしまおうという悲しい場面にも何回も出会っています。全国学習塾協会というすばらしい塾団体に入り、多くの全国の先



生方と知り合い、大変いい影響も受けました。感謝申し上げます。かつて京都大学に森毅先生という方がおられ、「80歳になったら社会の置物になる」と著作の中でおっしゃっていました。私はその考え方が大変すばらしいと思えます。3年間余分な生活をしました

◆塾業界へのアドバイスとメッセージ

私は今、不登校のお子さんや生活困窮家庭のお子さんの世話をしています。以前は不登校の主な原因として、いじめ、友人関係、授業についていけないなどがありましたが、今は、子どもが登校する時間に、すでに親は仕事に出かけている習慣がついていないというお子さんが多くなっているのです。地域により異なりますが、そのようなお子さんが増えているように思います。塾業界の方々にお願したいのは、昼間空いている塾の教室を何らかの別の教室や団体などに貸してあげるなど、そんな形で地域に



貢献していただきたいということです。私も町内会や老人会、子ども会、習字を勉強する会などに教室を開放しています。できること構いませんので、どうぞよろしくお願いたします。

坂井脩一先生

学習塾ポストン(有限会社ポストンクラブ) 会長



略歴／1937年12月2日生まれ。大学卒業後、日本NCR、日本FCJに勤務、在籍中に米国・ポストン大学に留学、統計学を学ぶ。72年、病気療養のため日本FCJを退社、帰郷。73年、ポストン英語教室設立、のちに商号を学習塾ポストンに改称。2009年、塾長を長男・浩氏に譲り会長就任、現在に至る。

受賞理由

極めて正当な教育手法を通じて北海道を中心とする地域の民間教育の発展に寄与した功績。

◆受賞のご感想

このような大賞をいただきました、本当にありがとうございます。私は塾を始める前に、10数年会社勤めをしていました。今でこそシステムエンジニアという職業の方は大勢いらっしゃいますが、私はシステムエンジニアとして企業に勤務していました。大病にかかり、その仕事を辞めて、故郷の北海道に戻って塾を始めめることにしました。最初は英語だけを教える塾、特に英文文を売出すような塾でした。



塾というのは一般的に、教科書をしていぬいに教えて内申書を上げるというのですが、私は教科書は無視して独自の指導を行ってききました。学年も関係なく、できる子はどんどん飛び級させました。私は東京、大阪という大都市で生活していましたが、生徒たちには東大や京大に入ってもらおうと頑張りましたが、生徒たちもそ



の期待に応えてくれ、難関大学に次々と受かるものだから、地域でも評判になりました。しかしそんな中、一番辛かったのは、長女が乳ガンで28歳の若さ

◆塾業界へのアドバイスとメッセージ

ひとことで言うと、人と同じことをやっているのは駄目だということです。最初は辛いかもしれませんが、自らの味を出していくように工夫すれば、あとになってこれでよかったと思えるのではないのでしょうか。子どもたちの未来を見据えた教育、独自の教育をしていただきたいと思えます。また、講師を採用するときは、自分たちの教育に合う人を採用していただきたいと思えます。

山口恭弘先生

全日本私塾教育ネットワーク 名誉会長
山口塾 元代表



《受賞代理人》
湯口兼司氏
全日本私塾教育ネットワーク 理事長

略歴／1930年4月12日生まれ。54年、山口塾（広島学習研究会）設立。90年、全国私塾連盟（全塾連）理事長。91年、社団法人全国学習塾協会副理事長。2001年、全塾連、全日本私塾協会、日本私塾会の3団体が合同して設立された全日本私塾教育ネットワークの初代理事に就任。04年、同初代会長に就任。

受賞理由

広島県を中心とする地域の民間教育の発展に寄与した功績、及び長きにわたり民間教育団体の発展に寄与した功績。

◆推薦の言葉

山口先生は、広島大学の学生時代に学費・生活費を得るために家庭教師をされました。昭和29年大学を卒業すると、家庭教師をしていた生徒たちからの要望を受け、小さな塾を開塾することになりました。これが、後年広島市にあつて中学受験専門塾として、圧倒的な実績を誇った山口塾の始まりです。一方、塾教育と経営に熱心であった先生は、しばしば遠路東京まで足を運び、首都圏の多くの塾

人と交流をされました。昭和39年には、創設されたばかりの「全国私塾連盟」に参加され、平成2年、山口先生は全国私塾連盟の8代目の理事長に選任されました。平成13年6月、全国私塾連盟、全日本私塾協会、日本私塾会の3団体は大同団結し、全日本私塾教育ネットワークが創設されました。合同に至る2年間、その指導的役割を果たされたのは山口先生でした。山口先生の指導を受けて山口塾を卒業していった生徒からは、今の広島県知事をはじめ有能なる社会人が多数輩出され社会に貢献しています。これはまさに「受験を通して社会に有用な人を育てる」という、先生の信念を具現するものなのです。80歳を過ぎた今でも子どもの教育について後進の我々に熱く語られます。この教育に対する失



全日本私塾教育ネットワーク会長 谷村志厚
全日本私塾教育ネットワーク理事長 湯口兼司
私塾ネットエリア中国 芸城学院代表 城忠道



※山口先生は体調を崩されて当日ご出席できなかったため、受賞の推薦の言葉に替えさせていただきました。また、受賞のご感想は湯口兼司先生が述べられました。